

平成28年度第2回留萌市総合教育会議 議事録

- 1 と き 平成28年6月23日(木)
- 2 と こ ろ 留萌市役所3階 3・4号会議室
- 3 出 席 者 市 長 高橋 定敏
 教育委員会教育長 早川 隆
 教育委員会委員 江島 直彦
 教育委員会委員 高田 潔
 教育委員会委員 舩田 諭希
 教育委員会委員 西川 知恵
- 4 関 係 職 員 生涯学習課長 長野 稔
 生涯学習係長 山下 雅司
 社会教育主事補 土田 健斗
 政策調整課長 高橋 一浩
 政策調整係長 佐伯 忠昭
- 5 事務局職員 教育部長 斉藤 一司
 学校教育課長 柏原 俊博
 学校教育課庶務係長 真鍋 磨
 総務係長 吉田 博幸
- 6 傍 聴 人 なし
- 7 開 会 宣 言 午後1時00分
- 8 議 事 録

発言者	内容
斉藤部長	<p>ただ今から、平成28年度第2回留萌市総合教育会議を開催いたします。</p> <p>本日の会議では「協議・調整案件」といたしまして、「第3次留萌市子どもの読書活動推進計画(案)について」を議題としております。</p> <p>開催にあたりまして、高橋市長からごあいさつをいただきたいと思っております。</p> <p>よろしくお願いいたします。</p>
高橋市長	<p>皆さんこんにちは。</p> <p>市内の小・中・高、あるいは保育所を含めて運動会も無事終わ</p>

	<p>ってですね、子どもたちがのびのびと昨日、一昨日は太子祭に多くの子どもたちがおりましたが、これから留萌祭り、そして8月の呑涛祭りといくわけですけど、子どもたちに郷土の歴史・文化、そして郷土の祭り、そういうことも十分子どもたちに触れていただいて、感じていただいてですね、自分たちがどういいう思いを持って楽しんで、そして、もう一度自分たちは郷土に、留萌に生まれたことを誇りに思ってくれるような環境を私どもは作っていかねばならないと思っております。</p> <p>今日は、読書に関する計画案のお話しでございますから、子どもたちに読書というものは、勉強用と歴史上の色々な人物との出会いを肌で感じ、また色々な書物の中で実際に行けなくても旅行をするような楽しい気分を味わえる。</p> <p>ともかく、本の中には広い広い、ある意味では空よりも広い、海よりも深い想いが一冊一冊の本にある。</p> <p>一冊一冊の絵本に私はあるのではないかと、それを子供どもたちに十分知っていただきたいと思っております。</p> <p>おかげさまで、三省堂書店留萌ブックセンターも5周年を迎えました。</p> <p>この留萌の三省堂ブックセンターというのは全国の出版会社が、極めて興味を抱いておりますし、全国の書店の中でも留萌の三省堂ブックセンターというのは常に話題になるということもございますので、ブックセンターの応援主体は、絵本の読み聞かせと積極的にこれまでしっかり5年間取り組んでいたことは、大変私どもにとっても喜び深いものだと考えております。</p> <p>改めて、本日はお集りいただきましたことに心から感謝を申し上げます。</p> <p>本日は、ありがとうございました。</p>
齊藤部長	<p>ありがとうございました。</p> <p>それでは、早速、議題に入らせていただきます。</p> <p>議事の進行につきましては、留萌市総合教育会議設置要綱第4条の規定により、市長に議事の進行をお願いいたします。</p> <p>よろしくをお願いいたします。</p>
高橋市長	<p>それでは議事に入ります。</p> <p>協議・調整事項の「第3次留萌市子どもの読書活動推進計画(案)について」を議題といたします。</p> <p>計画案につきまして、事務局より説明をお願いします。</p>
長野課長	<p>それでは、私の方から協議・調整事項「第3次留萌市子どもの読書活動推進計画(案)」につきまして、「資料1」によりご説明申し上げます。</p> <p>はじめに、「第3次留萌市子どもの読書活動推進計画」にかかります、これまでの経過でございますが、昨年12月11日に「第3次留萌市子どもの読書活動推進計画」の策定方針を決定以降、</p>

12月14日には市内小・中学校に対し「留萌市子ども読書アンケート」を実施、また、12月15日には、計画推進に関わる事業実施課に対し、「第2次留萌市子どもの読書活動推進計画事業の取り組み状況調査」を実施し、そのアンケート結果や調査結果を盛り込んだ、「第3次留萌市子どもの読書活動推進計画（たたき台）」を本年3月15日に完成させました。

その後、3月23日に開催しました「第3回社会教育委員の会議」と3月24日に開催しました「第5回教育委員会」へ、それぞれ計画（たたき台）を説明し、ご意見をいただいたところです。

また、3月24日には、計画推進に関わる事業実施課で組織します「第3次留萌市子どもの読書活動推進計画策定庁内連絡会議」を開催し、計画（たたき台）を説明し、ご意見をいただきました。

いただいたご意見を反映し、4月4日に「第3次留萌市子どもの読書活動推進計画（素案）」を決定、その計画（素案）につきましては、4月12日開催の「第2常任委員会」に報告し、意見をいただいたほか、4月18日に開催した「政策調整会議」においても計画（素案）を調整案件として提出し、意見をいただきました。

その後、4月20日から5月19日までの期間におきまして、「第3次留萌市子どもの読書活動推進計画（素案）」に対しますパブリック・コメントを実施、その間には、「第6回教育委員会」で計画（素案）の報告を行い、ご意見をいただいております。

また、パブリック・コメントの終了後ではありますが、5月26日に開催した「第1回社会教育委員の会議」においても、計画（素案）を説明し、ご意見をいただき、同日に開催された「第2常任委員会」へは、計画（素案）に対してのパブリック・コメントの結果を報告したところです。

いただいたご意見を反映した「第3次留萌市子どもの読書活動推進計画（案）」を作成し、6月17日開催した「政策調整会議」において、説明を行ったところでございます。

裏面をご覧ください。

「第3次留萌市子どもの読書活動推進計画（素案）」に対しますパブリック・コメントの結果でございますが、市民からは計画（素案）に対するご意見はございませんでした。

今後におきましては、7月4日に予定されている「庁議」において計画（案）を提出し、承認を得てまいりたいと考えているところでございます。

それでは、「第3次留萌市子どもの読書活動推進計画（案）」の説明に入らせていただきます。

計画（案）を1枚開いていただきまして、「目次」をご覧ください。

この計画につきましては、「第1章」におきまして「計画策定

の目的」、「基本理念」「計画の期間」「計画の体系」を記載し、「第2章」におきましては、「推進項目」3本を立て、それぞれの「推進項目」の「現状と課題」「施策の方向」について記載させていただきました。

「第3章」におきましては、「留萌市子どもの読書活動」を推進するための事業一覧と所管する部署について記載したところでございます。

「資料」としては、「子どもの読書活動の推進に関する法律」「るもい市子ども読書アンケート調査」実施結果について掲載したところですが、この全体的な作りにつきましては、「留萌市のすべての子どもがあらゆる機会とあらゆる場所において、自主的に読書活動を行うことができるよう、積極的にその環境整備を図る」とした第2次計画を継承することを、この計画の策定方針としたことから、大きくは変更していません。

1ページの「計画策定の目的」では、記載の仕方を国の計画、道の計画、当市の計画の順に改め、平成26年度までとしていました「第2次計画」を1年延長して実施してきたことなどを記載し、第3次計画の策定にあたっては、第2次計画の目的を継承し、取組の成果と課題、また新たな北海道の基本計画を踏まえながら、子どもたちの自主的な読書活動を推進する旨、記載したところでございます。

2ページ目の「基本理念」では、中段において、子どもたちの取り巻く環境の変化について加筆したところでございます。

「計画の期間」では、当初平成28年度から平成32年度までの5年間で想定したところでございますが、今年度策定を進めています「第6次留萌市総合計画」やそれに伴います「前期基本計画」、また、教育委員会で策定を進めております「留萌市教育ビジョン」、またそれに伴います「留萌市社会教育振興計画」と歩調を合わせ、効果的に推進が図られるよう、計画の期間を平成33年度までの6年間に変更したところでございます。

また、子どもたちを取り巻く環境の変化に対応できるよう、必要に応じて計画の見直しをする旨、明記し、中間年において推進事業の検証を行い、効果的な事業の推進に努めることとしたところでございます。

3ページ目からの「第2章 子どもの読書活動推進の方策」の推進項目1から3におきます「現状と課題」では、これまで実施してきた事業の内容と昨年末に行ったアンケート調査の結果から見てとれる現状と課題について記載したほか、調査結果の数値などを更新したところでございます。

また、推進項目1から3におきます「施策の方向」では、これまで実施してきた事業の効果などを紹介しながら、今度の方向について記載したところでございますが、ほぼ第2次計画を継承したものとなっているところでございます。

	<p>13ページ目の「第3章 留萌市子どもの読書活動推進計画事業一覧」につきましては、子どもたちの読書活動推進に係る事業とその所管部署について記載したものでございますが、「生涯学習課」につきましては、すべての事業と連携するため、一覧表の「所管部署」からはずし、14ページ目の表外に記載したところでございます。</p> <p>15ページから16ページにつきましては、「資料」として「子どもの読書活動推進に関する法律」を掲載し、17ページ以降には、昨年末に実施しました「子どもの読書アンケート」の結果と分析などを「資料」として掲載したところでございます。</p> <p>また、第2次計画では「資料」として「用語の説明」を掲載してございましたが、第3次計画では、用語が記載されているページの下段に説明を載せ、見やすいようにしたところでございます。</p> <p>いずれにいたしましても、この計画策定後につきましては、子どもたちの読書活動推進のための事業展開をしっかりと進めてまいりたいと考えているところでございます。</p> <p>以上で、「第3次留萌市子どもの読書活動推進計画（案）」の説明とさせていただきますので、ご協議のほどよろしくお願い申し上げます。</p>
高橋市長	<p>ただいま、「第3次留萌市子どもの読書活動推進計画（案）」の説明がありました。</p> <p>この件について、ご意見等をお願いします。</p> <p>江島委員いかがですか。</p>
江島委員	<p>考え方とか推進方法については、私も目を通しましたけども異議ないと思います。</p> <p>特に、現状と課題、施策の方向等が、大変きちんとまとめておりますし、特に学校図書館の中では、図書ボランティアの方々と学校図書と大変いい関係で協働で推進しております、学校図書がですね、子どもたちにとって大変親しみ見やすい場所になっていると思うんですね。</p> <p>このあたりが非常に向上したところだなと思っておりますし、市立図書館も実に整然と機能的に展示・収納されておりますね。</p> <p>そういう意味で、異議はありません。以上です。</p>
高橋市長	<p>高田委員いかがですか。</p>
高田委員	<p>私は、「資料1」というペーパーの4月20日から5月19日までパブリック・コメントをホームページで見れますので、これを見ました。</p> <p>資料と同じものがPDFで見るとなり、印刷できるという状況になって公開されていたということでありまして、アンケート用紙も添付されておりました。</p> <p>こんなことからいえば、十分な手続きがされていたと思います</p>

	<p>し、市民と情報を共有するという意味では意義があったというふうに思います。</p> <p>以上です。</p>
高橋市長	西川委員いかがですか。
西川委員	私は、この用語の解説というのが、とてもいいんじゃないかなと思います。
高橋市長	子どもたちの幼児期における絵本、先ほど三省堂書店の中での読み聞かせ、図書館での読み聞かせ、こちらの保育所も読み聞かせの時間帯をとっていると思いますが。
西川委員	毎日、お昼寝の前です。
高橋市長	全員にですか。
西川委員	<p>全員にというかクラスごとに、子どもたちもそれを中心にそれを聞いて、心を落ち着かせて、お昼寝に入るというのを習慣付けているので、結構、保育園の子どもたちは、図書館見学とか図書館に行くことがあると、それをとても喜んで、そこで読み聞かせとか、自分で図書館に行って好きな絵本を借りてきてということで、本には親しんでいるのかなあと。</p> <p>そのまま、小学校、中学校、高校、大人になるまでつなげていけたらなあ私たちは思いながら、努力をしていったらなあと思います。</p>
高橋市長	他市町村の保育所とのいろいろな会議があろうかと思いますが、他の保育所と比べた場合に、留萌市内の幼稚園、保育園の中での絵本に対する先生方の取組み、それは、恵庭市が一時先手を切って進めていたんですけども、うちも今、公立が頑張っているのかなと思いますけれども、その辺はどう感じていますか。
西川委員	管内の場合は、絵本というのが、保育所とか幼稚園にしかない分、留萌市は図書館というのが結構充実しているので、「いいね」というふうには言われます。
高橋市長	舛田委員はいかがでしょう。
舛田委員	今は、パソコンですとかスマートホンで子どもたちが、電子書籍をよく読んでいるようなので、図書館や本屋さんで本というものの紙の良さに触れ合うというのは、本ならではの良さだと思いますので、年代だとか環境に左右されるところはあると思うんですけども、そういうものを教育委員会ですとか、図書ボランティアですとか、いろんな環境がとりまく中で、子どもたちの成長に合わせた触れ合い方をされていくのではないかなと思います。
高橋市長	江島委員、学校の図書で本を選ぶとき、学校単位で子どもたちにただ面白いじゃ困るのかなという気がするんですけど、子どもたちが読みたくなる本、その辺の本の選択というのは、学校の現場ではどうなんですか。

江島委員	<p>学校の現場では、図書の担当の方を中心に、教務と教頭とか、初めに今年はどういう本を特に選ぶかということをおある程度職員会議で希望をとって、特に足りないところとか、興味のあるところを検討して、決めていくんですけども、アンケートを見たらこの中に図書ボランティアにも相談してほしいというような部分もありましたので、最終決定の前にボランティアさんの意見なんかも聞くという方法もあるのかと思います。</p>
高橋市長	<p>学校図書の財政的な部分で、うちで出している数字について、最近の状況ではどうですか、予算について。</p>
江島委員	<p>直接それについては、今は分かりません。 本もなかなか高いので、冊数ものそんなに買えないと思います。</p>
高橋市長	<p>早川教育長、学校との話の中で読書の予算等について要望なんかはどういう状況ですか。</p>
早川教育長	<p>学校との校長を含めた話し合いの中では、図書購入費に対する話はないんです。 ただ、学校の図書館教諭もなかなか忙しい状況がある中で、図書館ボランティアをすごく期待をしていますし、感謝をしていますという話が出ています。 一方で、図書館ボランティアからの話を聞きますと、通年作業をしている中で、図書の選定についてもできれば意見を聞いていただければ、やりがいがあるという、学校によっては図書館ボランティアに全て任せっきりのところもありますし、それと学校として、本を購入して、これを整理していただきと言うところもあります。 できれば図書の購入の方にも意見を聞いていただければ、すごくやりがいがあるんですという言い方です。</p>
高橋市長	<p>それは、今後の取り組み方ですから、十分対応できるのではないかと思いますので、いろんな意見があろうか思います。</p>
江島委員	<p>今回の読書アンケートが非常に適切で、おもしろいなあと思ったんですけど、本を読まない理由は、本よりも興味があるテレビゲームとか携帯が上位なんですよね。ただ大事なことは、よく読んでみたら、だからと言って本を否定しているわけではないんですよ。 他のアンケート見たら本の良さについては、十分子どもたちは認識して、大切なことも分かっているんですよ。 なぜ読むかという、ためになるからが70%と高い。 今のように小学校時代に朝読書を続け、本と親しむ習慣が大事ななあと思います。</p>

高橋市長	<p>子どもたちが、本当に本を読むことを一つの自分のルールにするっていうか、結局、本を読んだ子どもというのは力強くもなるし、意思をはっきり出せ、意思を伝えることができるというのは、本を深くよく読んでいる、そういう部分からすると力強い子どもを育てるためにも、読書の活動推進計画に則って、各学校の現場の図書先生、さらにはボランティアの方の意見も聞きながら、子どもたちの生きる力になるような本を設定して、また、子どもたちが他のことよりも本が面白いと思ってもらえるような組み立てを考えていかなければならないと思います。</p> <p>これからも留萌の子どもたちは、どこの子どもたちよりも本が好きだよっていう、そういうルートが生まれるように子どもたちと本との距離をできるだけ縮めて、豊かな心の子どもたちに作り上げていければなあと思っております。</p> <p>いろいろご意見いただきましたけども、その他、特にこの際ご発言等ございませんか。</p>
各委員	ありません。
高橋市長	<p>それでは本日の予定していた議題は終わりましたので、委員の皆さんから頂いた意見を参考にしながら、今後、読書活動推進計画に則って、進めたいと思いますので、よろしく願いいたします。</p>
齊藤部長	<p>以上をもちまして、第2回留萌市総合教育会議を終了いたします。</p> <p>ありがとうございました。</p>